

第3章 被災地での警察を取り巻く状況

1 警察官の被害

殉職者・行方不明者

東日本大震災では、数多くの警察官が職務執行中に被災し、命を落としました。これらのほとんどは、津波からの避難誘導や被害情報の収集に当たっている最中に津波に巻き込まれたものです。

本震災で死亡が確認された警察官は25名、行方不明となっている警察官は5名に上ります(平成24年3月11日現在)。

	殉職	行方不明
東北管区警察局	1人	0人
岩手県警察	9人	2人
宮城県警察	11人	2人
福島県警察	4人	1人
合計	25人	5人

事例

茶の間でうたた寝しているような顔だった。宮城県警岩沼署の遺体安置室。冷たい体の八島裕樹巡査(24)が横たわっていた。警察官になってわずか2年の若すぎる死。「起きろ。迎えにきたぞ」。父良隆さん(50)が話し掛けた。傍らで母美津子さん(52)は、ただ泣くばかりだった。

勤務する岩沼署は、仙台市の南で太平洋に面する名取、岩沼両市を管轄する。11日午後2時46分の激しい揺れと大津波警報。パトカーで住民に避難を呼び掛けている最中、津波の濁流にのみ込まれた。遺体は15日、仙台空港の近くで見つかった。

人のためになりたい、地域で人と接する仕事をしたいと警察官を志願した。疲れた様子で帰って来ても、両親には「ハードだけどやりがいがある。市民がほっとしてくれたり、安心したりしてくれるのがうれしい」と話していた。

岩沼署では八島巡査を含む6人の署員が行方不明になった。「住民の救助に没頭しているに違いない」と美津子さんは信じた。しかし…(中略)

子どもやお年寄りに優しくかった。スキーのインストラクターとして子どもたちに指導することもあった。良隆さんは「きっと職務を全うしたのだろう。かなうなら、今2分だけでいいから生きている息子に会って、ほめてやりたい」と話す。(後略) (平成23年3月23日静岡新聞朝刊)



殉職職員に手を合わせる宮城県警察本部長